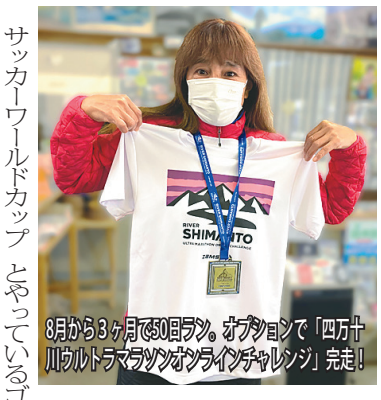
道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード


8月から3ヶ月で50日ラン。オプションで「四万十川ウルトラマラソンオンラインチャレンジ」完走！

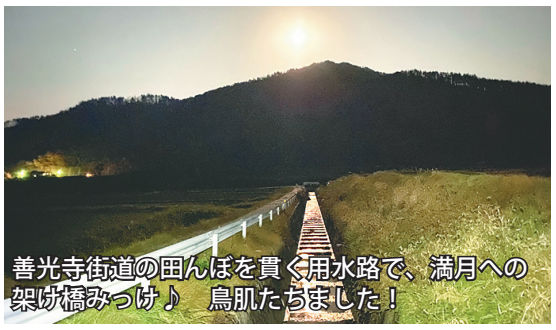
三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

サッカーワールドカップ（W杯）の熱気が冷めやらぬ年の瀬。選手もチームも現地サポーターも応援していた全ての方々、み～んなお疲れ様♪ 本当に「感動をありがとう」でしたね。中でも決勝トーナメント第一戦のクロアチア戦で先制点ゴールを決めた前田大然選手は、２０１６年に地元の「松本山雅ＦＣ」に所属していたので、感無量。「地元チームをもっと盛り上げてこれから先の日本サッカーを更に強くしていって高きを目指そう」という選手の言葉はまさにと思いましたが、実は日程が合わず、まだ一度も山雅の試合を生で観戦したことがありません。サポーターがずっとやっているゴミ拾いも兼ねて、今度ぜひ行ってみたいな。

ゴミといえば、また拾い始めてしまいました。正確には「走り始めた」ですが、趣味のラン&ゴミ拾いに精を出す日々が続いています。前季スノーボードをやりすぎて膝を痛めていたので、リハビリウォークからじわじわ慣らし、今は以前の６割ほどの感じまで戻ってトレランやジョギングを楽しんでいます。仕事を終えてからが多いので、今の時期は真っ暗闇のヘッドライトランですが、普段は車で通る道を速度を落とすといろんなものに出会えて驚きの連続。知らなかった秘密の坂道や小さな小川を見つけたり、光のマジックで用水路が天国の階段になったり。そしてメインで走る農地にはほとんどないのに、往来の多い県道は、やっぱりゴミが目立ちます。その県道、足で移動すると道路も隣接する家も広くて大きいのがいつも面白いな～と思います。当たり前ですが、速度や視線が変わるだけで、対象のものの大きさは変化するので、橋も歩道も土手もなんだか別物で愉快。いつもの町なのに走るたびに新鮮で止められません。「健康のため」の先に「70歳でまた100マイル走りたい」という野望もあるのですが、目の前にニンジンがないと続かないタイプなので、携帯のアプリを使って参加するオンラインマラソン（４週間で100キロ）にも参加してみました。案の定、想像以上に楽しかった！

さて、今年一番ビックリは、裏山の松の大木が倒壊したことでしょう。引っ越してきた9年前はそうでもなかったのに、急激に松枯れが進み、「倒れたら、ガードレール壊して大変なことになるから伐採しなくては」という話が近所であがっていました。費用がかなりかかるので地権者も悩んでいた矢先の9月末、山が崩れたかなと思うような地響きと共に倒壊。近くで見たら、まるでジャックと豆の木のように大きくて驚愕。専門業者が除去したのですが、当然玉切りした木を道路の法面へ捨てるので、「大丈夫かな」と思っていたら、樹木の引っ掛かりから外れたひとつが、斜面をコロンコロン。その下にある我が家の庭まで落ちてきました。鹿除けの防護柵があったお陰でなんとか止まったのですが、柵を破ったら居間へのお客様となっていたはずです。クリスマスのブッシュノエル（ケーキ）なら大歓迎ですが、長さ2ｍの丸太はご遠慮願いたいもの。

急斜面の特別警戒区域に住むリスクを考えずにはいられませんでしたが、嬉しいこともありました。昨年行われていた地滑り防止工事の後ダンプ通過で痛めた道路の補修工事が残っていたのですが、この秋に完成したのです。たった一本の林道ですが、かつての東山道であり、絶対に守りたかった大好きな道。お陰でさっそくジョギングコースになりそうです。なにしろ100マイルは5ヵ年計画。私も新しい景色を見に行くために、チャレンジする勇気をもって、ガンバリマース♪


善光寺街道の田んぼを貫く用水路で、満月への架け橋みっけ♪　鳥肌たちました！

車だと一瞬で通り過ぎる小さな橋。工事現場をランで通ると、巨大かつ歩道もできてて「わ～い」。

3キロでも十分楽しいトレイルラン。毎回景色も違って「ヤッホー！」。（光城山山頂にて）

長雨の翌日、真夜中にドドーンと倒壊。人の被害はなく、地区の水道管も50センチ横でセーフ！奇跡！

12月の道路補修工後。左のガードレール（凹んだところ）の真下が居間に通じており、ドキドキ。

九州の散歩道

今も謎解きが続く「吉野ヶ里」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

佐賀県にある吉野ヶ里遺跡は、全長2・5キロの壕に囲まれた日本最大規模の弥生時代の環濠（かんごう）集落跡です。弥生時代は紀元前5世紀頃から紀元3世紀頃までとされていますが、数百年にわたる弥生時代のほぼすべての遺跡が確認されており、当時の生活の移り変わりや、ムラからクニへと成長していく過程を知ることができる貴重な場所です。国の特別史跡にも指定されています。

遺跡の発掘調査が本格化したのは昭和60年頃から。それ以前に工業団地の造成が計画されましたが、事前調査で広範囲に遺跡が広がっていることが分かり、計画は縮小されます。最終的には多数の住居跡、高床倉庫群跡、３０００基を超えるかめ棺墓、王の墓と考えられる墳丘墓、埋葬品の銅剣やガラス製の管玉ほか、多数の土器、石器、青銅器、鉄器などが出土しました。

吉野ヶ里遺跡とその周辺部の117ヘクタールは公園として整備され、吉野ヶ里歴史公園として公開されています。遺跡そのものは保存のために埋め戻されていますが、復元した建物群や墳丘墓などを見学することができます。広い敷地を活用した芝生広場や遊具設備もあり、遺跡や古代について学べるだけでなく一日中遊べる公園です。

吉野ヶ里遺跡の発掘調査は終わったわけではなく、まだまだ未調査のまま残っているエリアがあります。そのひとつに日吉神社のある小高い丘がありました。日吉神社は公園のほぼ中央にあったのですが、これまで神社があることから発掘対象から外されていました。今年に入って神社を移転し、約10年ぶりに本格調査を行う計画が進められています。地位の高い人物の墓などが見つかる可能性もあり、すでに敷地から紀元前2世紀頃のかめ棺墓が見つかっています。さらに、奈良時代の青銅製のおもり「権（けん）」も見つかっており、古代の役所である「郡衙（ぐんが）」があったのではないかと言われています。

吉野ヶ里歴史公園では毎年12月に「光の響（ひびき）」というライトアップイベントが行われています。弥生時代の建物群が復元された園内を色とりどりの照明が照らし出し、６０００個の灯籠が一面に並ぶ光の地上絵、古代の星空を解説してくれる移動式プラネタリウム、熱気球の夜間係留などもあります。古代遺跡のいつもとは違った表情が楽しめますよ。

（写真提供：佐賀県観光連盟）

弥生時代の建物が復元された吉野ヶ里歴史公園

ライトアップされた園内が楽しめるイベントも

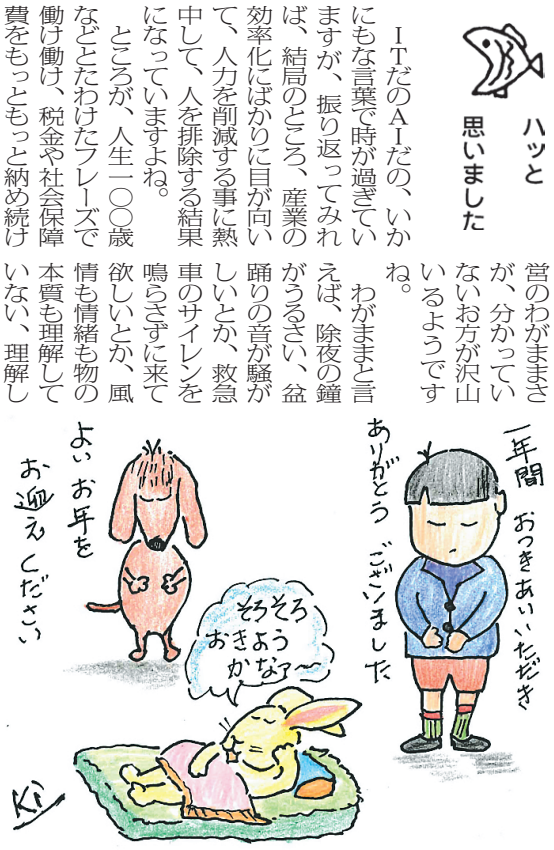
ハッと思いました

ITだのAIだの、いかにもな言葉で時が過ぎていますが、振り返ってみれば、結局のところ、産業の効率化にばかりに目が向いて、人力を削減する事に熱中して、人を排除する結果になっていますよね。

ところが、人生一〇〇歳などとたわけたフレーズで働け働け、税金や社会保障費をもっともっと納め続けろと言われているような・・。働けと言われても、職は無く途方に暮れる多くの国民が。国家運営のわがままさが、分かっていないお方が沢山いるようですね。

わがままと言えば、除夜の鐘がうるさい、盆踊りの音が騒がしいとか、救急車のサイレンを鳴らさずに来て欲しいとか、風情も情緒も物の本質も理解していない、理解しようとしない人が増えてきます。緊急車両がお忍びで走って?どういう事?喫緊では、子供の声がうるさい、ホコリが舞い立つから公園を閉鎖して欲しいとか。私には思いもつかない現実です。国も個人もわがまま全盛ですね。

さてさて、今やクルマの必須アイテムとなっているのが、カーナビ、ドラレコ、ETCです。二十代、エアコンすらついていないマニュアル車に乗っていた頃、遠方やはじめての場所に行く時は分厚い道路地図が唯一の頼りでした。そんなある時、友人の一人が、ほとんど地図を見ず、どこにでもたどり着くのでした。すごいなぁと。なんで?と聞いたら、太陽・月、川の流れを見てれば大体の方向が・・。と言うのです。いつの時代の話なんだと驚きました。仕事で深夜走る事がしばらくありましたが、この時は、ガソリンスタンドが目安地点と言う先輩方のアドバイスでした。

何もかもが機械に丸投げのクルマ・ドライバーの時代はどうしても信用できません。

年末年始、飲酒運転・わがまま運転撲滅を実現しましょう。